謹賀新年

広報 みのかも

1962年（昭和37年）
1月1日
発行所
美濃加茂市役所
編集人
総務課長 小藤栄
印刷所
可茂新聞社

新年特集号

ご愛読ありがとう
新年は更に充実し
広報の重大使命の
達成に努力します

昭和三十七年の新しい春を寿ぎて

美濃加茂市長 渡辺栄一

輝かしい昭和三十七年の新春を迎え、まずもって市民の皆様のご多幸をお祈りいたします

美濃加茂市誕生以来八年合併当初の建設計画を遂行し、市民待望の新庁舎の竣工を初め、東中学、加茂農林高校、国道、県道、市道など、交通、通信網の整備等、重大継続事業が相次いで完成し市の一体性を全く確立するとともに産業経済基盤を造成して工場誘致を具体化し、また農業の近代化企業化を推進するなど本市の飛躍発展する諸条件が内外に整いつつ、市勢の繁栄と市民福祉の向上を致できましたことは、いつに市民一致協力の賜であり、厚く感謝申し上げるとともに誠にご同慶に堪えません。

新産業都市の建設

この間皆様の深いご信頼とご援助をいただき市長の重責にあつて、八度目の新春を迎え、私はさらに本市将来の発展に深く想いをいたすとき、中部経済圏内隣地にあつて本市を中心として飛騨、木曽川流域の恵まれた水資源、電力資源と豊富な工業用地、従横に交叉する鉄道、道路、通信網の要衝となり、産業、経済、文化の基幹となつていますが本地域がさらに飛躍発展するために必然的におこる問題として、木曽川を中心とし本地域が共通の目標と利益のもとに積極的に協同的建設体制を確立することの重要性を痛感するのであります。

例えば飛騨、木曽の豊富な水資源を農業、工業、上水道用水を始めとする総合開発の一端として木曽川右岸用水改良事業阿賀野川同盟の発足や、この流域の優れた自然景観を一大公園化する飛騨、木曽川国定公園指定促進期成同盟があり、また中濃地区集約酪農地域の指定と県下唯一の家畜メインセンターの建設拡充に始まつた本地域の酪農、養鶏、養豚より養蚕、果樹等県下屈指の生産地帯を形成し、その協同体制がしかれ、文化的には加茂農林高校、職業訓練所等の建設に、都市環境衛生としては加茂保健所の建設や可茂衛生施設利用組合等の一部事務組合などその例は枚挙にいとまない程であります。

とくに近年著しい勢いで発展している中京工業地帯隆盛の鍵は、一つに名古屋を中心とした西三十粁圏内の理想的な産業配置にあるとされ、幸い中部経済界においては西の羽島に対し東の美濃加茂として、既に名古屋から金属機械工業が岐阜から縫製工場など数多くの工場が本市に進出しており、また化学技術庁の中京工業圏確立に関する勧告のなかでも名古屋を中心とした西十粁圏内に属する後背工業圏開発計画のモデルケースとして本市周辺を表示し、ているように道路、交通、通信の要衝とし、且つその立地条件と豊富なる資源、工場用地、労働力を包蔵した本地域が最も理想的な後背工業地とした機械工業を中心とした中京に直結する工業ベルト地帯となろうとしています。

このようにして一大工業地帯の出現によつて固定資産税より電気ガス税等にいたる地方税や水道料金の増加による市財政の充実とともに関聯産業、商業えの好影響、雇傭や購買力の増大等を通じて本市経済の繁栄と市民生活の向上が期待され、国民所得や生活水準の格差の均衡を計り、真に住みよく豊かな都市築りをいたさなければならないと存じます。

このなかにおいて私が特に念願いたしますことは単に工業発展とか都市建設とかいうのではなく、これを中心として中京工業地帯と密接不可分に連帯する大きな工業ベルト地帯の一大消費市場が形勢されることにあり、これに対する唯一最大の農林、畜産、果樹、園芸の生産地帯として農業経営の合理化、高度化を進め、また農業就業機造の改善、教育文化の向上等農業を近代化させるなど本地域の総合的な発展が真に重要なる要諦であると確信します。

幸い国においても新産業都市建設促進法等の実現が急がれており、これ等と相俟つて木曽川をはさんで都市形態を整えて本地域開発の新産業都市の実現も夢ではなくなりました。

このために本地域の市町村が一体となつて産業立地の基盤にたつて共通の利益と繁栄をみちびくよう本地域住民各位の大局を見る英智と限りない情熱と協力が更に必要であると存じます私はこうした将来の趨勢を見極め、国県を始め関係機関の援助と協力により次の諸案件を強力に推進し実現を計りたい。

産業立地条件の整備拡充

1、工業用地の造成
2、工業、農業、上水道用水として水資源の開発
3、交通網
高山線美濃太田駅を軸として高山線の貨客のディゼル化とディゼル基地の建設促進とともに一高山線の復線化の計画編入や越美線の貫通と関多線の早期実現により文字通り交通の要衝とする
4、通信　名古屋等重要都市との即時通話と周辺地区の一本化
5、道路網　市内にて交錯する名古屋―富山間一級国道四十一号線の新設改良、二級国道蒲郡―岐阜線の新設改良、瑞浪―米原間一級国道二十一号線の改修及び木曽川大橋の架橋と小牧を経て名古屋に直行する路線の実現等を進め、これに多治見より中央自動車、小牧インターチェンジより名神高速自動車道に連絡するなど道路の一体化と整備を促進
4、下請企業の拡充整備
本地域工場経営懇談会と商工業の総合診断をし下請企業の強化をする。
5、電力供給の調整
6、労働開発

自然環境都市条件の整備拡充

1、国定公園計画の推進。飛騨木曽川国定公園の指定と一体化した公園計画による施設の建設
2、教育文化。農林高校職業訓練所に更に、時代の要請する課程の新設や農業高校の実現
3、都市計画の立案実施
4、農業近代化
家畜メインセンターを中心として県の畜産振興の重点的投入や、本地帯農業近代化に即して主産地形成
これら諸案件を円滑に推進するために広域の開発に検討を加え協力体制をさらに強化してゆきたい

大美濃加茂市建設の年

市議会議長 渡辺茂三郎

昭和三十七年の希望ある新春を迎え、皆さんの御健康と御多幸をお祈りします。

昨年は新庁舎の竣工を初め産業立地条件の整備拡充にいたるまで美濃加茂市の歴史の上に画期的な輝ける一頁を記した意義ある年でありましたがこれも市発足以来八年間渡辺市長を、中心として三万市民が、一致協力たゆまざる市繁栄えの、ど尽力の賜であり、ともにお喜び致すところであります。

新年は、本市将来の大勢を見極めて大極にたつた百年の大計を推進する重要な時期に当面しており、渡辺市長の政治的手腕と識見に期待し、一致団結、本地域繁栄の基幹となる自信と誇りを持ちたゆまざる前進をいたさなければなりません。

私ども市議会は、常に総合的な視野と公正な世論を尊重して一致団結努力し、皆様のご信頼に応ずる覚悟であります。

豊かな市民生活の実現

＝市政の充実＝

これら内外の諸条件を国県や国有鉄道公社、その他の公社等の配慮と協力により公共投融資を願い極力地元負担を軽減して整備拡充これに肉を付け血をかよわせ、豊かな市民生活の実現のために市政効果をさらに産業振興に及ぼし市民サービスにつとめるために前記諸案件とともに市内の諸施策を推進したい。

産業経済基盤の確立

1、道路網の整備、一級国道の舗装、新設、改良完成に伴う県道の取付道路の整備、二級国道の加茂野地内の改良、木曽川大橋取付道路の継続を始め県道の蜂屋法仙坊線道の完成による太田―伊深―美濃路線の開通、太田―神淵間の県市道の改修によるバス路線の早期実現等既、市道の整備と各町にわたつて簡易舗装を積極的に推進
2、通信網
名古屋その他との即時通話とともに蜂屋法仙坊トンネルの開通に伴う伊深地区の市内一体化等を促進し、また農村公衆電話を各地に設置
3、工場誘致の具体化
先に記しましたように本市に対する工場の進出はめざましく今年は更に具体化促進をする。

農業の近代化

市独自の近代農業基本計画の策定と市独自の農業資金融資によるこの推進とともに農村青少年教育、農政の拠点としての農業センター建設の促進や、農道など土地改良や、木曽川右岸用水調査の造抄、果樹園造成、農易水道を行い、あわせて県の主産地形成指定等により農業の近代化を進めたいと存じます。

観光

飛騨木曽川国定公園の指定実現による観光ルートの建設や伊深温泉の実現

教育

東中学校第二期工事完了に伴う小、中学校の諸整備をすすめるとともに、本市の生んだ世界的文豪坪内逍遥顕彰碑の除幕や、昨秋逝くなられた名誉市民津田左右吉先生を顕彰し、津田文庫の設置をはかりたい。

四十年の国体には国際的に秀れた技技であるレスリングの誘致と、主会場で開催の全国体育主任者会議を本市で開催する等とあわせ体育の振興と整備拡充をする

民生福祉

環境衛生の一部として最も効率的なし尿処理、塵芥焼却場の今春竣工屠殺、国保の健全な運営を計りたいまた消防団については、近代消防にふさわしい組織を充実し施設の整備更新と適正な配置をすすめたい。

また勤労者の福祉厚生、保育所の整備、公民館、集会所も適時整備をしていきたい

市民負担の軽減

地方税法の改正により直接者控除を初め、諸控除や税率等により諸負担を軽減するとともに土地改良を初め諸負担を極力軽減したい。

このような　諸施策を初め各方面にわたる数多くの事業が本市発展の基盤となり本市内外の伸びゆく立地条件が整い経済力の豊な真に住みよく、平和な文化の香り高い郷土の実現に努力し数年を経ずして飛躍的な市勢の繁栄と市民福祉の増進に役立つものと信じます。

私も今年四月で市長の重責八年間を経て第二期満了となりますが、今まで寄せられたご信頼と、ご支援ご厚情に報いるべく真心無方伸展に微力を尽し、昭和三十七、八年をのりこえて洋洋たる昭和三十九年度以降の明るい市政基盤確立に邁進したい所存でありますので、市民一致協力あげて御支援、ご協力をお願いしたいと存じます。

新春にあたり、皆様のご健康とご多幸を念じ所感の一端を述べてご挨拶といたします。

謹賀新年

昭和三十七年元旦

市長 渡辺栄一
助役 小島賢
収入役 大野鉞一

市議会議員（議席順）

議長 渡辺茂三郎
副議長 春見森一
総務委員長 大野藤市
文教民生委員長 飯田軍治
建設委員長 長尾茂
産業経済委員長 則竹敏夫
津田岩助
板津謙治郎
福地省三
堀部栄一
村井武市
早川守
渡辺文雄
川合桂
堀部忠雄
渡辺郷一
渡辺安正
山本薫
高橋行一
日比野順一
片山録
三浦利雄
荘加金次
仙田猶次
山田肇
堀江正一
三宅繁一
山下穣
村井鈴雄
坂本太郎

教育委員会

委員長 堀部遠
委員 北川荘
渡辺銀三郎
竹森貞一
教育長 伊藤義夫

（市章説明）美濃加茂市の「カ」の字の図案化、吉ヤとり山部経済圏交通の要衝であることと、日本ライン発祥の地であることにちなみ中央軸斜曲線により日本ラインの流れを力強く簡潔に象徴する。

躍進美濃加茂の10大ニュース

1961年の回顧

1、新庁舎竣工
2、統合東中学校開校
3、加茂農林高等学校独立
4、農業の近代化進む
5、木曽川右岸用水改良事業期成同盟発足
6、道路網の整備進む
7、市章きまる
8、工場誘致進む
9、名誉市民津田博士県議野呂徳雄氏ご逝去
10、梅雨前線豪雨才二室戸台風の被災

昭和三十六年は国際的にはベルリン問題や、ソ連、続いてアメリカの核実験の再開などと国際情勢が緊張し、国内においては所得倍増計画に基く著しい経済成長も後半国際収支が悪化し、経済の行詰りの現象をまねいたが底流において産業構造、基盤整備が急速に進捗し、岐阜県においてもこれに対処する産業開発十カ年計画の初年度にあたるなどと重大な年であつた。

とくに本市において渡辺市長が長い闘病生活後一月二十八日に初登庁し、又市の歴史の上に輝かしい一頁を飾る躍進美濃加茂の象徴である新庁舎の竣工を初め産業経済基盤を造成し工場誘致の具体化や農業近代化が進められるなど、昨年の歩みは市政百年の大計を語り形成するものとして歴史的な充実した一年であり、これを十大ニュースに要約した。

新庁舎竣工

三十五年五月着工、一億一千七百四十五万円余を投入し主体工事は建築界最高のスタッフである設計講口、工事は清水建設によつて行なわれ五月十六日竣工式を挙行、文字通り市の象徴となり市民の福祉と繁栄につながる市政の中枢機関となつた。（写真左　竣工式典と下は同協賛行事）

加茂農林高等学校独立

六十年の伝統と校風を受けつぎ近代農業の旗手として本地域の念願であつた加茂農林は関、益田、可児、多治見高校の農業科を吸収して本地域唯一の農林高校として四月より発足、本市より地元負担六百八十万円余と敷地一万坪を提供、これにより市内二高校が出現した。

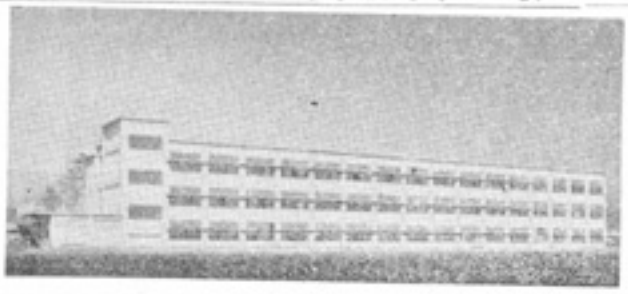
農業の近代化

集約酪農地域より家畜センターの誘致に始まつた本市の農業は酪基盤の整備とともに各市に例のない市単独農業近代化等により、現在県下でミルク、果物、肉等の最大の宝庫は本市及びその周辺地域となつたが、さらに本地域の産業発展にふさわしい農業の高度化、近代化を計かるために農業近代化審議会、各町に農業企業化推進協議会を設置市独自の近代農業基本計画の策定と、この推進資金として市単独農業企業化融資を行つた。

統合東中学校開校

第一期工事鉄筋コンクリート三階建普通教室十八、特別教室三が完成、四月より開校し続いて第二期工事、同じく鉄筋コンクリート三階建に着工し、この完成により県下でも屈指の中学校が出現、名実ともに中学校教育を一段と高めようとしている。

木曽川右岸用水改良事業期成同盟発足



（東中学校）　（下は農林高校）

十一月四日木曽川流域二市五カ町村により木曽川右岸用水改良事業期成同盟が結成、渡辺市長を会長に決定するとともに、中部電力が計画している大野郡高根ダムを多目的として飛騨川七宗より最大十トンを自然流下で山之上上野の高さで二十五キロの幹線、二十六キロの支線をつけるなど農林省が二十九億円余を投入し農地の開発、工業上水道用水として本地域の総合開発と農業の近代化を計ることになり、既に農林省、県等により四百万円を投入して予備調査が行われた。

市章きまる

新庁舎の竣工を契期に市章図案を公募、全国より寄せられた優秀作品八百三十四点の中から佐賀県川内繁次氏の作品を採用、十一月十日付け市章制定を告示した。

工場誘致進む

東洋の切削工業市場に驚威的な進出をするバイト生産の日新工業が加茂野町木野に、日本碍子関係の精密機械の瑞穂工場が巾上に、また青山被服、太陽理化、本田鉄製が古井町に進出操業を開始した。

市内では大熊鉄工、本田技研、三菱電気等と取引し米国など五カ国の特許をもつた神代鉄工場が完成その他東和製作所を始め市内中小工場の新設、拡充強化がいそがれており中京工業圏後背理想的工業地として各会社が嘱目するなど極めて見通しは明るい。

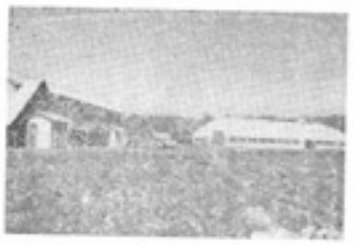
（日新工業）

道路網整備進む

一級国道四十一号線の太田橋―森山間が全線国庫で巾員十一米延長、三千米余、太多線の高野線を除いて殆んど完了また、一級国道二十一号線は市内全線のコンクリート舗装が完成し太田橋も修理し水銀燈も復活した二級国道の加茂野内の新設改良、十三米道路の舗装、木曽川大橋取付道路工事も進み、その他太田―神淵間の市道改良完成、県道も鳴見峠を始めとし改修、また美濃加茂―美濃線の蜂屋法仙坊隧道も、新春の一月中には開通の運びであり、四通八達した道路網の一本化の骨格が出来上がり、各町の簡易舗装が積極的に進められ氷久橋架替も行はれた

（一級国道と高野線）

梅雨前線豪雨
第二室戸台風の被災



（神代鉄工所）

（青山被服）

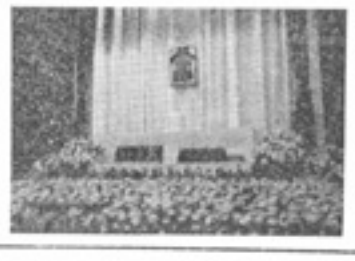
六月二十七日には梅雨前線豪雨により昭和十三年以来の木曽川の大洪水となり太田町深田、下町地区などに床上浸水二一八世帯に及んだ。また九月十六日の第二室戸台風は、瞬間最大風速四二米となり、家屋一四〇戸余の全半壊と農作物に甚大な被害を及ぼしたが、これら被災者に深くお見舞申し上げます。

（法山坊トンネル）

名誉市民津田左右吉博士　県議野呂徳雄氏　逝去

三十五年三月十日、本市初の名誉市民に推挙した下米田町出身の津田博士は十二月四日ご逝去、十二月十一日早稲田大学大隅講堂において大浜総長を葬儀委員長として文部大臣等を迎え、大学葬が行われ、市を代表して市長、議長等が参列した。

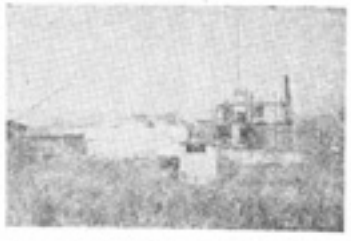
また常に農民のなかにあつて農業開発と地方自治発展に身を犠牲として献身努力された野呂県議が七月二十九日死去され、氏の悲願であつた農業近代化と本地域の一体化は多くの人々の心に生かされ稔つていくことであろう。



（花に埋もれた故津田博士）

× × ×

その他、近隣五カ町村共同で建設中の、し尿処理場も外廓は殆どなり今春には竣工する。　加茂野町再度の全町完納、公益質屋、児童公園の開設が上げられ、県案の飛騨木曽川国定公園の指定は自然公園審議会の厚生大臣への答申が来年二月に持ち越されたが十二月九日開催された　期成同盟総会で渡辺市長が会長に再選され、その実現を期することに決定した。



（し尿処理場）

改正された市 県民税の概要

昭和36年5月1日法律第74号によつて　地方税制が改正されました

市　県民税の申告その他課税についていろいろ御協力いただき　適正なる課税の本分を全うしたいと思いますので　その概要を記しご参考にいたしたいと存じます

本市に於ては市民税（但し書方式）　県民税（本文方式）の二本建の課税方式を実施することになつた。

即ち換言すれば市民税

については主として　税額控除　県民税について

は主として所得控除と資料の使い分けが必要となつた。

☒ 主なる改正点

1 給与所得控除の引上げ　肝消勤労控除の引上げ（給与所得の一万円天引控除）

2 医療費控除、生命保険料控除、社会保険料控除等については県民税にのみ採用し所得控除を行う

3 専従者控除の創設青色及び白色事業専従者の控除制度を創設し　県民税…所得控除　市民税…税額控除を行う

4 扶養親族控除…県民税…所得控除及び税額控除　市民税…税額控除を行う

6 障害者　老年者　寡婦　勤労学生等の控除

市県民税共税額控除を行う　但し県民税については法定控除　市民税については任意控除とされる

以上が市県民税に対する改正の概要であるが、所得控除、税額控除、税率等の細部については地方税法の規定に準拠して条例で規定されます

成人式のお知らせ

成人になられました市内の皆様をお招きして15日午前9時より 市中央公民館で成人式を挙行いたしますので該当者の方は是非ご出席下さい

尚、該当者は昭和16年1月1日より12月31日までに生れた方です

新年の貯金計画
家族の方でも預入できる冊子式定額貯金

郵政省では昨年十二月から新しく冊子式定額貯金証書を発行しました。

毎月利用したり、継続して多数の定額貯金の預入をする預金者の証書保管上便利を考えて証書十枚に表紙をつけてとじ込んだもので、預入金額は一口千円から取り扱い、本人はもちろん家族の方も預入れすることができるので大へん便利である。

郵便局の定額貯金は六カ月たてばいつでも出すことができる、半年復利で定期なみの利息がつくので長く預けておくと有利な仕組みになつています

（美濃加茂郵便局）